

第十四號
報部

昭和十三年一月二十一日

- 愛國行進曲 (内閣情報部撰定)
- 支那事變と本島の鑛業 (殖産局鑛務課)
- 支那事變とシヤム (臨時情報部)
- 地方情報 (臨時情報部)
- 美談集 (臨時情報部)
- 附錄事變日誌 (臨時情報部)

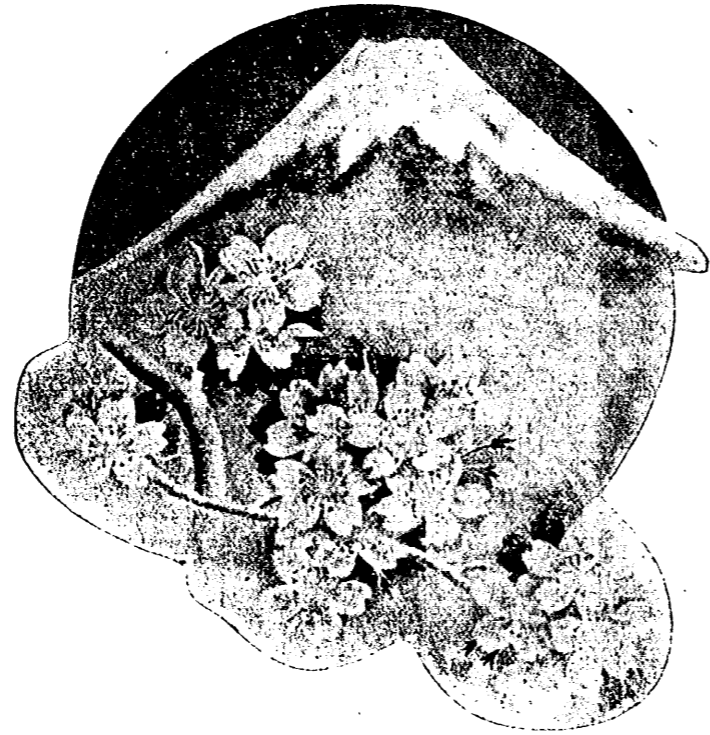
臺灣總督府

臨時情報部

昭和十三年一月二十一日發行



愛國進行曲



内閣情報部撰定

愛國行進曲

内閣情報部撰定

[M.M. ♩ = 112-120]

みよとら かいの そらあけて きよくじつ たかく
 かがやけ ば てんちの せいき はつらつと
 きばうは をどる おほやしまおお せい

三

皇國の進歩の往々に築かれ
 大なる歩調の往々に築かれ
 森々たる歩調の往々に築かれ
 神代より
 あまの道は
 進まぬ守れ
 断乎守れ
 試練の嵐
 いま、幾度も
 我が上に
 理想は花に
 正しき平和
 四海の人を導きて
 往け 宇をなし
 八紘を

らうのあさぐもに
 そびゆるふじのすがたこそきんねらむけつ
 ゆるぎなきわがにつばんのほ
 こりなれ

二

御稜威に副はん大使命
 臣民等共にて
 光々たる君を戴きて
 起て一系の
 我が日本に誇りなれ
 金匱の策を
 鐘の響き
 お朝雲に
 希望は清らなる
 天の正氣
 旭日の輝き
 見よ東海の
 空高く輝け
 内閣情報部撰定

帝國政府聲明

一月十六日正午發表

四

帝國政府は南京攻略の後尙支那國民政府の反省に最後の機會を與へるため今日に及べり、然るに國民政府は帝國の眞意を解せず素りに交戦を策し、内民人塗炭の苦しみを察せず、外東亞全局の和平を顧みるところなし、依つて帝國政府は爾後國民政府を相手とせず、帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待しこれと兩國國交を調整して更生新支那の建設に協力せんとす、固より帝國が支那の領土及び主權並に在支列國の權益を尊重するの方針には毫も渝るところなし、今や東亞和平に對する帝國の責任愈々重し、政府は國民がこの重大なる任務遂行のため一層發奮を希望して止まず。

支那事變と本島の鑛業

殖産局鑛務課

一國の富力は産業の發展に懸つてゐる。工業の振興には其原動力として石炭、石油等が、又材料及原料として各種の鑛産物が如何に重要なる役割を有つものであるかは今更言ふまでもない、殊に軍需工業の資源として必然的に缺くべからざるものが多いが、戦争が平面的から立體的に、更に科學的に進展するに及んで益々此の感を深うする。鑛物資源開發の意義の重要性も此處に依存し、本島が帝國南方に於ける産業並經濟的發展の礎石として動かし難い地位を占める丈に之等資源開發の緊急性も一層大なるものがあるのを認める。

元來本島は鑛物資源に恵まれ、既に發見せられたもの、みにても八十餘種に及び、其分布を見るに金、砂金、銀、銅、鐵、硫化鐵、マンガ、クロム、其他金屬鑛物は主として本島の極北部から中央山脈の東斜面及東部海岸山脈の一帯に、石炭は北部及中部に、又石油及天然瓦斯は特に中部及南部に埋藏の徴候がある。然し乍ら臺灣鑛業規則に依りこれ迄に採掘を許可せられた鑛物は金鑛、金銀鑛、金銅鑛、金銀銅鑛、砂金、水銀鑛、金銀水銀鑛、銅硫化鐵鑛、マンガ、銅鑛、燐鑛、石炭、石油、硫黄の十四種で、鑛區總數は六百八十餘、其面積は二億坪を超え、現在稼行中のものは全面積の半であるが、鑛産額は近年著しく増加し、本島鑛業の躍進的發展を示してゐる。昭和十一年中

五

の鑛産總額は二千八百七十二萬七千圓で本島改隸以來の最高を示し、前年に比し五百八十八萬八千圓を増産し、更に昭和十二年に於ても相當の増加が推定せられる。産額の最も多いものは石炭で總生産額の四割を示し金銀銅鑛、金、金銀澱物、金銀鑛、銅、石油等が順次に次ぐ。

總督府に於ては夙くより鑛物資源開發の重要性に鑑み各種の施設を實行し、一方業者の不斷の努力と相俟て本島の鑛業を今日の隆盛にまで導いたのであるが、現在施行中の主なるものは鑛物及地質調査、油田調査、金屬鑛床調査、産金の獎勵並管理、石油の試掘補助、天然瓦斯の利用研究等で、更に昭和十三年度からは之等の施設を一層擴大強化し、之が實行の促進を圖る爲、新に百五十餘萬圓の經費を計上してゐるから、同年度に於ける總督府鑛業施設の總經費は二百七十餘萬圓の多きに達する理である。

斯くの如く本島鑛業の發展は内産業經濟の充實と外國防的見地に立脚し、時局に則應して著々其の歩武を進め來り、今次事變に際しては一段と其重要性を痛感せらるゝに至つた。今、時局に關聯し我々の特に關心を有たねばならない重要鑛物資源に就き其概要を述べることとする。

金 本島は我國屈指の金山として名高い金瓜石及瑞芳の二鑛山を有し、前者は日本鑛業株式會社の經營で金銀鑛、金銀銅鑛の品位の高いものは其儘大分縣佐賀關に直送して同所の製鍊場で處理し、品位の低きものゝみ自所製鍊場に於て全泥青化法の操作を以て金銀澱物としたる上、同じく佐賀關に輸送してゐる。後者の瑞芳は臺陽鑛業株式會社の經營で金鑛は總て同鑛山に於て選鑛及製鍊を爲してゐる。今之等二鑛山で生産する金及含金鑛物を純金に換算すると年三千六百匁となり、内地に於ける産金量の二割、朝鮮を含む内地の産金量より見るも尙一割に相當する。然も之等の産金は右鑛山に於

ける八百萬坪の地域から生産するのであるが、本島の産金豫想地は北部から東部一帯に亘り極めて廣汎であり、昭和十二年以降實施の東部金屬鑛床調査の進捗に伴ひ、新に有望なる鑛床の發見せられることも豫想に難からぬところである。

然るに近年我國に於ける各種工業の興隆は外國物資の輸入を激増し、之が決済に關し金の現送を斷行せられた結果、可及的金の増産を圖ることが緊要なるに至り、曩に大藏省に於ては數次に亘る金買上値の引上其の他に依り、又商工省に於ても探鑛獎勵其の他之が對策を講じ來つたが、本島に於ても内地産金政策と相呼應し、金屬區出願處分の促進、探鑛獎勵金の交付、産金法の施行等之が施設に著手せるところ、偶々支那事變勃發し産金増加の重要性は愈、其度を加ふるに至つた次第である。

之等産金施設の内容は次の如くである。

東部金屬鑛床調査 本事業は昭和十二年以降五箇年計畫を以て本島中央山脈の東斜面及東部海岸山脈に於ける金屬鑛床地域に於て廣く有用金屬の賦存狀況、品位、其他を調査し之が開發を圖らんとするものであるが、産金増加の緊急性に鑑み、金屬床の調査に關しては特に萬全を期してゐる。

金屬區出願處分の促進 鑛業出願の處分に就ては從來極力之が促進に努め來つたが、金屬區の出願に對しては特に人員を増加して可及的處分の圓滑を期してゐる。

探鑛獎勵 金屬山の開發は探鑛に依り稼行價値を闡明にすることが極めて重要である。本事業は専門的技術者をして主要金山に於ける探鑛を指導並監督せしめると共に産金獎勵規則（昭和十二年十一月二十日府令）に依り金探鑛に對し獎勵金を交付するもので、金瓜石、瑞芳、其の他の金山に於ては其の事業計畫に基き新鑛床の探究に努めてゐる。

八
産金法の施行 以上産金奨励施設と相併行し、産金を管理すると共に増産奨励施設を側面的に一層強化する目的を以て昭和十二年九月二十五日産金法が施行せられた。同法の内容は新産金の政府集中の爲、取得含金産物又は砂金の政府への強制買却（本島では日本銀行の代理店として臺灣銀行が取扱つてゐる）、金製錬業者及含金産物買入業者の免許、事業の廢止休止の許可及認可、金貨幣、金地金等の取得處分保有の取締、業者に對する取締監督、産金業の保護助成より金融其他一般市場に及び之を規定し、内地産金政策と緊密なる連繫の下に本島特殊の立場に於て運用の完璧を期してゐる。然るに更に金政策を一層強化する目的を以て昭和十二年十二月二十八日金使用規則を施行し、當分の中九金以上の金は醫療用及工業用以外許可を得たものでなければ使用することを得ないこととなつた。

選鑛製錬場の建設助成 本島の産金は瑞芳鑛山に於て製錬せられるもの以外は之を鑛石又は澱物として取扱はれてゐるが、島内に於ける製錬に依り一層産金の増加を期する爲、昭和十三年度以降三箇年繼續を以て毎年選鑛製錬場二箇所の建設を助成することとなつてゐる。

銅 銅は貨幣、合金材料、電線、器具機械、兵器、硫酸銅の製造原料として極めて重要な鑛産物である。本島の生産は金瓜石が其大部分を占め原鑛又は沈澱銅（青化銅）として佐賀關に輸送してゐるが、同鑛山に於ては設備の全能力を發揮して之が増産計畫を實行中であり、又東部臺灣には地質學上から考察するも、更に今日發見された幾多の露頭から見ると其賦存は確實であるから、東部金屬鑛床調査の進捗に依り之が開發につき具體的計畫が樹てられる理である。

水銀 水銀は醫療及工業藥品、火藥雷汞、混汞製錬、電氣機械器具、船底塗料、其他用途は極めて

廣汎である。本島では北部及東部金屬鑛床地帯に其埋藏が豫想せられ、就中北部の水銀鑛山は有望であるので近く之が探鑛に著手の豫定である。

マンガン 製鐵用特殊鋼合金材料、特に武器其他軍需品の原料として缺くことが許されぬ。本島に於けるマンガン鑛區は近く探掘に著手の豫定であるが、更に東部金屬鑛床調査の進捗に伴ひ新鑛床の發見も豫想せられる。

硫化鐵 硫化鐵は硫酸製造原料、銅製錬用鹽基性容劑として極めて重要である。殊に我國に於ける硫安は殆んど外國から供給を受けてゐる實情であるから、之が自給上硫化鐵鑛の増産と利用の合理化は特に考慮を要する次第である。本島金瓜石及瑞芳鑛山は其埋藏が豊富であるので現下内外の情勢に鑑み夫々硫酸製造の計畫を進めてゐる。

鐵 鐵の需要に就ては今更言ふ迄もない。然るに我國に於ける鐵鑛の自給率は極めて貧弱で、從來需要の大部分を英領馬來、中華民國、其他より仰いだのであるが、今次の事變以來中華民國からの輸入は全く杜絶し、之に代るべき原鑛を何處に求むべきか、業者の等しく苦慮を重ねつゝあるところである。幸にして日滿ブロックの立場から滿洲國に之が資源を獲得すること、或は又南洋其他の地域から輸入すること等が考慮されてゐるが、多少に拘らず我が領土内に之を求められ、ばそれに越したことはない。本島新竹州下には鐵鑛の埋藏を認めらるゝに依り、之が埋藏量、品位等につき充分なる調査研究を遂げ、具體的對策を考究するを要する。

石炭 石炭の需要は鐵道、航路、其他交通機關の擴充と各種工業の興隆、殊に人造石油製造事業、其他新興工業の勃興に依り著しく増加の趨勢にあり、更に將來に於ける需要の増加を豫想する。

とき茲數年にして倍加するであらうことは直に首肯せられる。

彌つて本島に於ける昭和十一年中の生産は百七十五萬噸にして略自産自給し得る現状で、消費の主なるものは船舶燃料、製糖業、鐵道、窯業、コークス製造、其他であるが、本島の帝國南方に於ける地位愈々重きを加へ交通機關の擴充、産業の工業化への躍進等顯著なる情勢にあり、殊に製糖業に於けるパカスの代用燃料、セメント工業の擴大、電気事業、或は又製鐵業其他新興工業の勃興に依る需要の増加に想到するとき本島に於ける石炭需要の將來も亦豫想に難からぬところである。

而して本島の炭業は茲數年劃期的發展を遂げ、出炭地域も北部から中部へ擴大せられつゝあり。本島鑛業の大宗として益々其地歩を確保するに至つたが、現在稼行中の炭鑛に於ては炭層其他の關係から採炭上困難を伴ふものが尠くなく、總督府に於ては從來之が技術の指導並監督上遺憾なきを期してゐる。殊に上述の如く石炭需要の將來は愈々激増の趨勢にあるに鑑み、本島一般産業の發展を目標としたる増産計畫を樹立し、新炭層の發見、埋藏量、品質の調査を行ひ以て時局に處すべく考慮中である。

本島産業の將來は炭業の發展に懸つてゐると言ふも過言でなからう。支那事變下に於て石炭生産力増大の益々重要性を加へつゝある所以である。

石油 近時自動車、航空機の増加に依る交通運輸の飛躍的發展と各種工業の興隆とに伴ひ石油需要の範圍は益々増大せられ、又軍備機械化の傾向は内燃機關の燃料として特に石油の重要性を加ふるに至つたが、我國は石油資源に乏しく國內の産油は需要の一割にも達せず、大部分を外國産石油に依存せねばならない實情にあるので、之が恒久的對策を確立して平戰兩時に於ける供給を確保して置くこ

とは、現下の時局に鑑み洵に緊要なること、言はねばならぬ。

本島の油田地域は中部及南部に亘つて全島の半を占め、其地質構造は石油の埋藏に適し、今日尙發展の途上にあるものであるから其將來に對し多大の期待が懸けられ、我國燃料政策の遂行上洵に樞要なる地位を占むるものである。然かも本島油田に於ける油質は頗る良質であり、又石油層と密接なる關係にある天然瓦斯の發生地域も亦極めて廣汎に亘り、其噴出量の莫大なるに加へ各種の有用成分を含有し、充分なる利用の途が講ぜられるに於ては其油田價値は更に一層加へられるに至るであらう。茲に於て本府に於ては夙より地質調査、油田調査を實行し、又油井の試掘に對しては補助金を交付して極力之が開發の促進を圖り來つたところで、殊に昭和九年度以降は經費年額三十萬圓を以て、又最近産業並國防上の見地から本島燃料資源開發の特に重要性を加へ、且本島に於ける油層の關係上深試掘を要するものあるを考慮し、三千米の試掘井に對し之が經費の半額を補助して斯業の發展を期せんが爲、昭和十一年度以降三箇年計畫、總經費三百萬圓を以て本事業の達成に努めつゝあり、更に又現下時局の對策として石油の増産計畫を樹て昭和十三年度以降同じく三箇年計畫、總經費二百六十萬圓を以て試掘補助を計畫中である。

之等試掘補助は著々其實績を挙げ就中日本石油株式會社の出礦坑油田は夙より採油に著手し居り、又同社錦水及新營の兩礦場では天然瓦斯の豊富なるに鑑み天然揮發油の抽出、カーボンブラック製造の裝置を設けて之が運轉中であり、日本鑛業株式會社の竹東礦場に於てもカーボンブラックを製造してゐる。更に本府天然瓦斯研究所に於ては天然瓦斯の工業的利用の調査研究が進められつゝあり、殊に昭和十二年度以降著手せる航空燃料油製造實驗の成果に對しては多大の期待が懸けられてゐる。

斯くの如く本島に於ける石油資源の開発と之が利用の合理化に就ては従来多額の経費を以て時局に則せる施設を講じ來つたのであるが、一方石油が重要物資として有事の際に缺ぐことを許されざるに拘らず、其大部分を海外に仰ぎつゝある實情を考慮し昭和九年七月一日石油業法を施行して石油精製業者及輸入業者の許可制度を採用し、且之等をして常に輸入石油の一定量を保有せしむることとなつた。又最近に至つては石油の消費節約を目的として昭和十二年三月三十一日アルコール混用法が公布された。自動車其他内燃機関に使用されるガソリンに一定量のアルコールを混用せしめんとするもので、本島に於ても近く同法の實施を見る筈である。

以上の如く本島鑛業の發展に關しては或は經濟界の推移に従ひ、或は國策の遂行に順應して、之が促進に努め來つたところであるが、支那事變の勃發は本島鑛業開發の重要性を加速度的に倍加し、其計畫の實行を愈々緊切ならしめた。

次に鑛産資源の開発と相表裏して考慮を要するものは生産物消費の節約である。金に就ては既に産金法、金使用規則に依り之が強制的統制管理が行はれつゝあり、又銅は昭和十二年十一月二十五日總督府令を以て使用の制限が加へられた。アルコール混用法が近く實施されんとしてゐることは既に述べた如くである。其他の鑛産物に就ては未だ強制的に消費を制限すべき法令の制定を見ないが、石油、石炭等の燃料を初め重要物資の消費節約問題は各方面に於て研究され實行に移されてゐる。然かも斯かる問題、實行の効果は國民の精神運動として自制に俟つところのものが多い。

時は戦時體制下にある。本島重要鑛物資源の開発と生産物の統制運用に關し官民各位の充分なる理解と援助とを切望して止まぬ。

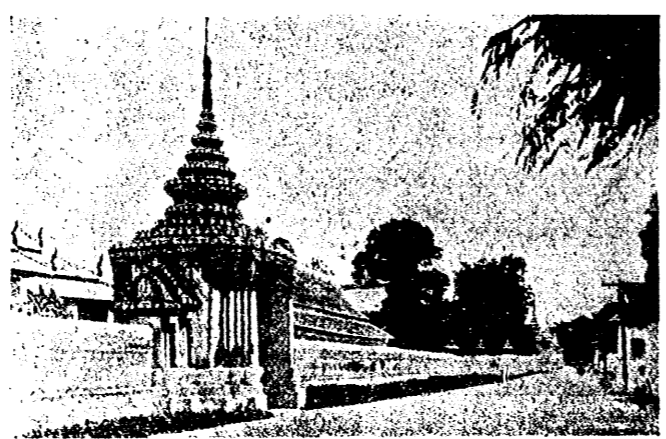
支那事變とシヤム

臨時情報部

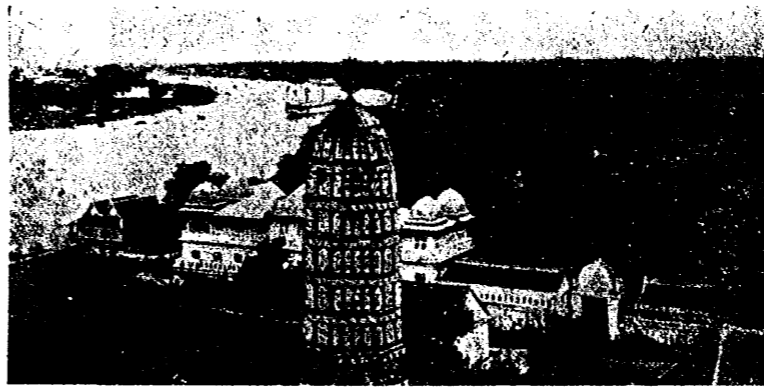
一 シヤムの概観

陸地面積三、八二〇、〇〇〇方呎といふ廣大な南洋は到る處白人の植民地なのでありますが、其の中に唯一つの獨立國があります。それがシヤムです。シヤムは印度支那半島の中央に位し、立憲君主制を布き首府を盤谷に置いて居ります。シヤムの國民は自らムアン・タイ即ち「自由の國」と呼稱し、自由を謳歌し獨立を誇つて居ります。

シヤムの總面積は五一八、一六二平方呎あり日本の七六・七五%に當つて居りまして、北部は佛領印度支那の老撾及英領緬甸と境し、西は下緬甸、東は佛領印度支那の老撾及び、柬埔寨に接し、南部は長く延び地峽をなして英領馬來に續きその中にシヤム灣を抱擁してゐます。シヤムは便宜



寺-ボツワ (寺いし美も最てい於にムヤシ)



觀景のクツコンバ

上北部、中部、東北部(東部)、東南部及南部(地峽部)の五つに分割して考へることが出來ます。北部は山岳地帯をなして、チーク林を以て知られ、中部はシヤムの「米倉」と云はれ、メナム河を中心として展けた坦々千里の沖積大平原をひかへた最重要部であります。東北部及東部は、今尙ほ千古の夢を貪つてゐる大原始林に被はれてゐるコーラート大高原を以て知られ、南部及地峽部は鑛産に於て顯れ、殊に錫の産額に於て著しいのであります。

総人口は千三百八十萬五千(昭和十二年調)を算し、人口密度は方秆當二二(本邦方秆當一二四)であります。その中華僑数は、シヤム人として登録せる者が多い爲明確に知るを得ませんが概數百數十萬に上るべく、その混血兒を加へると二百五十萬に達するものと見られてゐます。大部分は南支出身者であることは南洋各地方と同じであります。在留邦人は五二一人で、その中内地人、四三〇人、臺灣人八九人、朝鮮人二人(昭和十年十月現在)で其の八〇%強は首府盤谷に在住して居ります。之等在留邦人の職業は盤谷に



(河ムナメはるれ流を央中)

於ける會社員、商店員が最も多く、輸出入貿易商、醫務關係業者、官公吏、寫眞業、印刷業、理髮業、漁夫等で、其他各種雜業及家事被傭人がありますが、大多數は中産階級として豊かな生活を營んで居ります。地方在住者は、醫師、齒科醫、賣藥、寫眞、雜貨業等で、臺灣人は主として臺灣茶の輸入販賣を營み、朝鮮人は朝鮮人參の行商に従事し、活動してゐる様な現状であります。

次に我が國との貿易關係に就て述べませう。

日暹貿易の過去を顧みる時、我が國は永年入超の立場でありました。一八九六年以來四十年間に於て、出超を見たのは一九一八年、一九二〇年の兩年と、一九三三年以後であります。よつて、出超に轉じたのは極最近の事でありませう。之は、從來シヤムよりの輸入額中九割を占めてゐた米の輸入が一九三三年以後見られなくなつた爲と、一つは、我が國工業の急速な發展により、良品廉價の邦品が暹に進出し初めた事情によるのであります。

最近の日暹貿易の状態は一九三五年、三六年の一年間に

於ける貿易額三二、〇五八千銖、内日本への輸出三、二五六千銖(臺灣九)、日本よりの輸入、二七、八〇二千銖(臺灣一六二)で全貿易額の二五・六%を占めております。(一銖—日本金約一・六圓)(昭和十三年一月臺灣銀行調)日本への輸出品の主なもの、材木(チーク材及其他)花梨等で、日本からの輸入品の主なものは、綿織物、絹織物、鐵製品、海産物、硝子製品、醫藥及賣藥、陶磁器、ゴム製品、皮革及同製品、酒類等多種類に亘つて居ります。我が臺灣からは茶、紙等を出し、シヤムからはチーク材及其他の商品を入れております。尙ほシヤム市場に於て日本品は五〇%以上を占めてゐる様な趨勢であります。航路はシヤム航路を通じて居り、大阪商船三井物産の貨客船が往復して居ります。

現在の國王はアナタ・マヒドン陛下で、國民の國王を尊敬し崇拜すること實に厚く國王を神となし、國家觀念強く、絶對服従の慣習を有して居ります。

住民は複雑多岐でありましてタイ族、モン・クメル族及西藏・緬甸族の三大種族が主要種族として



象の中搬運材巨ク—チ

て中心をなしてゐますが、シヤムの支配階級は人口の大部分を占めて居るタイ族中の所謂シヤム人でありませう。



(子都糖砂はるあに駐) 田水の近附—リブヤチべるあに帯地峽地

シヤム國は佛教を國教となし、住民の大部分は佛教を奉じてゐて、其の他は僅かに印度人のヒンヅー教、馬來人の回教及安南人の基督教を見るのみです。

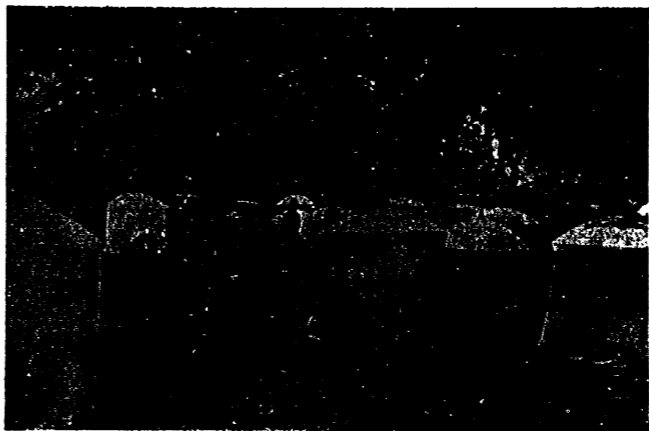
盤谷はシヤムの首都でメナム河の河口より二十五哩の上流にあり、人口六十四萬五千(一九三六年調)の大都市であります。盤谷市の有名なものは王城、離宮その他の宮殿及無慮四百に近いシヤム美術の粹を聚め輪奐の美を極めた寺院であります。其の他特有の古代建築より近代建築の美を誇る種々の建築物が人の眼を惹いてゐます。當市には河の一部に設けた盤谷港あり之によつて海外貿易を營んで居ります。

二 支那人の動向

扱て今次事變勃發以後に於けるシヤムの情勢に就て述べて見ませう。事變の當初に於ては表面的な排日運動はなく、唯南シヤム方面に於て馬來半島方面からの惡質の抗日風潮が波及して多少の問題が起きたに過ぎない状態でした

が、支那より宣傳員が派遣せられてから抗日分子の潜在的活躍が相當活潑になつたのは否めない事實です。今回の排日は強制的でなく、夫々華商の愛國心に訴へ自發的ボイコットに導かんとする方法を採つて居るので相當強力な統制のあるものと見られるのであります。故に海産物、雜貨等の日本品はその表示があるものは取扱を避ける風が生じ此種商品が多の影響を受けたのは止むを得ない處であります。然し綿絲布、硝子類の如き經濟的に絶對優位を占めてゐるものはその影響は殆んどありません。盤谷タイムス紙の報道によれば日本からの主要輸入品三十品目の統計は七月七八五、七九四銖に對し八月五七五、八〇三銖、九月四〇九、七四六銖となつて居り輸入は漸減して居りますが、華商の裏面的取引は急激に悪化すべくもありません。これは彼等が愛國心よりも自己の商買により關心を持つて居る爲であります。

然し事變の進展に伴ひ對日ボイコット團の華僑に對する暴行脅迫は愈々熾烈露骨となり、その襲撃殺傷事件が連日新聞紙を賑はし遂には白晝公然と殺傷が行はれるやうになりました。その暴舉見るに



(るす行携でん屋はトシテ)答野の侶侶

忍びないものがあり最近「支那人は由來平和愛好の民と言はれてゐるが、近來支那人にして法律を無視して直接行動に出で、日本商品を取扱ふとの理由に依つて同胞商人に危険を及ぼす者あるを聞き遺憾に堪へぬ……中立國內に於て斯る物騒な行動の繼續は斷じて許さるべきでない。警察は嚴重な取締りを行ふべきである」といふやうな投書が新聞に掲載され又盤谷タイムス紙の如きも同趣旨の論説を掲ぐるに至つたのであります。

次に事變に對してシヤム官憲は如何なる態度を採つたかと云ひますと、南洋に於ける唯一の獨立國であるといふ誇りと名譽を持ち元來我國と親交のあつた所からその態度も嚴正中立であり、従つて官憲の取締も相當嚴重で排日運動も隣邦とは比較にならぬ程平靜なものがあつたやうです。然し南洋一帯に亘る排日風潮に押され、列強の輿論に對する氣兼ねもあり、又抗日分子の暗躍には如何とも施す術のなかつたのも止むを得ない處でせう。されど叙上の事態に立到つてはその面目にかけても黙視するを得ず、嚴重な取締りが行はれ、矢繼早の支那人秘密團體一味の逮捕となり、



(るあで村クーチ部全) 家洋宅住ふ沿にーリプロ

又商店街に多数の正私服警官が巡邏して警戒に當るやうになり、サンペーン區(支那街)も平靜に歸つたやうに傳へられて居ります。又シヤムの諸新聞の論調を見ますに、暹字新聞は何れも嚴正中立の態度を採り、英字新聞も比較的中立的態度を保持して居り、サイアム・クロニクル紙の如きは「極東の嵐は何處まで荒るゝか」と題する社説に於て「……日支兩國の聲明は何れも最後まで戦ふと言明して強硬な態度を示し、世界各國に於ける各種の決議や示威運動も事件の解決には何等の實際的效果はなく、單に火に油を注ぐやうなものである。斯る事態の裡にあつてシヤムが嚴正中立的態度を堅持してゐることは我々の喜びであると共に今後嵐が如何に荒れ狂はうとも又何處迄荒れ續かうとも此の態度に變りなからんことを信ずるものである」といふ様に述べて居るのを見てもその一端を窺ふに足るのであります。之に對し支那新聞紙は例のデマ放送を仰々しく掲げ、逆宣傳に大童となつて居りましたが上海放送局が我軍の爆撃により機能を破壊され、情報支那に不利な宣傳を帯びたものが多くなつた時はさすがに狼狽し、日刊「華僑友報」はシヤム新聞に南京放送のニュース無料提供方を郵便電信局に泣付いた程でした。

然らば斯る雰圍氣の裡に在つて在留邦人は如何に對處しつゝあるでありませうか。此地には邦字新聞紙なく、一般邦人の時局に關する認識の薄い憾があつたので日本公使館附陸海軍兩武官の後援の下に日本人會に於て英、暹字新聞の報道を翻譯の上隔日に在留邦人間に配布して時局認識の徹底に努めて居るのであります。此地の邦人には最近シンガポールに於ける邦人行方不明事件のやうな生命身體には些の不安もなく、唯邦商の經營困難が傳へらるゝ程度で南洋の他の地方に比べて凌ぎよいものがあります。

あります。

支那經濟學博士凌氷の此地に於ける義捐金募集が豫想を裏切り極めて不成績であつたことは華僑が如何に國民政府に冷淡であるかの證左であり、殊に上海戦に於ける支那軍の大敗は彼等に大いなる衝動を與へ救國運動も排日運動も一頓挫するに至り南京陥落の報は更に之に拍車を加へたやうであります。又日貨排斥は年末に際して多數の華商を倒産に導き正に天に唾する者の譬となり、曩に抗日分子の脅迫をうけて日貨排斥に参加したる印度人商人も所詮は旅の道連れに過ぎず、自己の都合次第で日貨を取扱ふに至り、更にシヤム人も列強への氣兼ねを捨て進んで親日熱を帯びるやうになつた現狀に於ては、今暫くの冬籠りを甘受すれば應て在留邦人にも待望の春が訪れることでありませう。

地方情報

○事局に對する蕃情

新竹州臨時情報部

時局に對する蕃情

支那事變に對し州下高砂族は何れも正確なる認識を堅持し自己の使命を確認し時局に對應し會て流
言蜚語に惑はされ又は揣摩臆測等の爲蕃情に動搖を來したるが如きことなく、事變勃發以來皇軍將士が
日夜苦難を排し一死報國東洋平和の礎石として奮戦刻々敵土を席卷、驚異的戦功を收めつつある状況
に痛く感激し、愛國精神の熱火は渾然一體となり國防献金及慰問金の釀出又は馬糧の献納に、或は出征
軍人遺家族の慰問に、戦捷祈願等に銃後の護に精進し益々國民精神總動員の趣旨に副ふべく家業に精
勵しつゝあり、蕃情極めて靜穩を持続し居る状態である。最近に於ける言動を見るに次の通りである。

- 一 角板山青年副班長ポトセツ、
私共は一層官の御指導を遵守し一生懸命働き協力一致銃後の護りを堅め皇恩の萬分の一にも酬ゆる
覺悟であります。

竹東郡下高砂族

二 メホマン社頭目タラオターラン

曩に家長會で協議した馬糧献納に就て我々は努めて立派な品を献納したいと思ひ努力して居ます。
又子供等にも教育所の歸り等に少し宛でも採つて來る様に勸めて居ますが、之も國家觀念涵養の意味
からです。

三 チンムイ社頭目パオポーヘン

天皇陛下のお住ひなされる東京は支那大陸と大變離れて居る。然し我々の住む臺灣は非常に近い、其
の支那と今戦争して居るにも不拘我々はかうして平和な生活が出来るのは、上御一人の御蔭と強い兵
隊さんの御蔭で洵に有難いと感謝して居ります。

○支那事變に關し執りたる措置

臺南州臨時情報部

一 國民精神總動員新年奉祝式の舉行

昭和十三年一月一日歳旦に當り、聖壽の無窮を壽ぎ奉ると共に時局の重大性に鑑み國民精神總動員
の趣旨に則り舉國一致盡忠報國の念を新にし、以て州民の覺悟を堅むるの趣旨の下に、臺南州に於て

は新年拜賀式終了後、特に州廳並に附屬團體職員六百餘名列席の下に國民精神總動員新年奉祝式を舉行し、終つて臺南神社に參拜せり、尙州下市街庄を始め各學校團體等に於ても一齊に奉祝式を舉行し、以て舉州一致盡忠報國の念を新にする所ありたり。

二 戦傷者の慰問

昭和十二年十二月二十九日及昭和十三年一月十日川村知事は總督代理として〇〇陸軍病院に當日歸還せる名譽の戦傷者を見舞ひ總督よりの慰問金を傳達せり。尙知事よりも別に金一封を贈呈慰問する所ありたり。

三 將兵並に遺家族慰安演藝會の開催指導

臺南州國防義會、愛國婦人會臺南州支部及臺南市共同主催に係る將兵並に遺家族慰安演藝會は昭和十二年十二月二十五日より三日間臺南市宮古座に於て開催せるが、參加者は臺南〇〇〇〇、陸軍病院及憲兵隊將士を始め遺家族等三千餘名に達し、又愛國婦人會臺南州支部役職員之が接待の勞を執り大いに歡待に努むる所ありたり。

四 支那事變の巡回映寫 (第十五回)

支那事變の巡回映寫第十五回を一月六日より十七日に亘り各都市に於て實施せり。

○銃後の澎湖

澎湖廳臨時情報部

一 出征軍人、軍夫家族慰問

澎湖廳に於ては、今次事變に出動又は應召したる廳下在住の軍人、並に出征軍夫の家族の年末慰問として、十二月二十七日各家庭の生活状態により三種に區分して各街庄に委嘱して慰問金を贈呈せり、慰問金總額千二百六十圓也。

二 廳下職員の國防献金 虚禮廢止に依る冗費を

澎湖廳に於ては民風作興會協議會の決議に基き、年賀回禮を絶對に廢止し名刺交換會を以て之に代へ、之等の虚禮廢止に依る冗費を以て國防献金せり。其の金額は三百六十六圓五十八錢也。

三 賽錢箱に依る國防献金

白沙庄國民精神總動員實施事項の一行事として、各部落に於て毎月十五日を國防献金デーと定め、部落民が廟の賽錢箱に各自隨意の國防献金をなすことになり居り、去る十一月分の献金を取纏めしに金六十一圓三十八錢に達せしを以て、之を臺灣國防用兵器資材費として本廳經由馬公要港部に其の手續をとれり。

四 警察官夫人の目覺しき銃後の活動

去る十二月二十日附馬公支廳に榮轉の西嶼小池角警察官派出所勤務木山巡查部長夫人かづえさんは、愛國婦人會員として本事變勃發以來専ら會員の銃後の護りを遺憾かならしむる爲めに指導教化に

努められ、小池角派出所管内は勿論、遠く竹篙灣、外按の兩派出所管内の各部落へも毎日戸別訪問せられ、愛國婦人會員の皇軍將士慰問金に、又は愛國婦人會員の募集に寢食を忘れて活動せられたり。短時日の間に五百餘名の新會員の加入を見たるも、全く夫人の熱誠の賜なり。

尙夫人はこれのみならず、慰問袋の作製に、又軍夫出征に際しては自發的に軍夫の爲めに深更まで握飯を作る等、其の他何事によらず夫人の献身的努力には庄民一同感謝感激し居れり。

五 防衛團長の熱誠 出征軍夫及家族の感激

西嶼庄防衛團竹篙灣分團長吳再此君は、今次事變發生以來寢食を忘れ懇切に多數團員の指導訓練に當り、その熱誠は部落民のひとしく感激するところなるが、過般軍夫出征に當りては荒天而も暗夜にも拘はず軍夫を引率し小池角派出所に至り、直に引返し深夜をも厭はずその家族に通知すると共に、部落の有力者を戸別訪問し慰問金の取纏めに奔走せり。短時間に七十餘圓を集め之を軍夫に贈呈せるが、その熱誠に軍夫は何れも感泣し之を配戴さ

「國家の爲、我が澎湖島の名譽の爲必ず人にまけない働きを致します」

と誓つて、喜び勇み出發せしが、吳君は尙出征後の軍夫の家族を一々訪問し丁寧な慰問の言葉を述べ、又色々相談相手となり居る由、この奇特なる行爲は軍夫の家族は勿論庄民の普く感謝感激するところなり。

美談集錄(十一)

臨時情報部

非常時に蘇る日本魂

戰場に不孝の罪を贖はんと

勇躍征途に赴く王青年

日がな夜がな女と酒に末梢神経を麻痺させて、來る日も來る日も享樂から享樂へと人生の暗黒面のみを求めて歩く王青年。

兩親の愛を一身に受けて我儘一杯に何も彼も自分の思ふ通りに育てられた王敦仁君は、二十六才の今日、兩親の言葉も親類の誰彼の苦言も、馬耳東風と聞き流す天晴れ臺南指折りの不良青年になつてしまつた。

今日も今日とて歡樂街を獵り廻つてもう何軒目かもわからぬ、とあるカフェーの客の少いボックスに座つた王青年は、どうしたことか、折から暇な女給がやけにかき鳴らす軍歌のレコードに聞き入つて盃取る手も忘れてしまつた。

「歡呼の聲に送られて今ぞ出て立つ父母の國、勝たずば生きて還らじと……………」

チーつと目を瞑つた王青年の眼前に浮び出るのは、先日〇〇驛頭歡呼の聲に送られて日章旗林立の中に出た〇〇部隊出征の状景だつた。そして其の後列に今は天晴れ軍夫長として出征した幼な友達の姿だつた。「あの日の」友人の姿を思ひ浮べると流石の不良青年も何か知ら此の儘には過せない様な気がした。気がイラ／＼するまゝに立て續けに飲んだ酒も苦い。ネオンの光も女の脂粉も何かしら嫌になつて来た。

折から又も鳴り出すレコードは

「……夢に出て来た父上に、死んで歸れと勵まされ……」

思はず浮び出る父の顔!! 近年めつきり霜を加へた母の姿!! 親不孝者!! 親不孝!! 内心の叫びは高まる。

まう矢も盾もたまらなくなつてしまつた彼は、友人の制止もきかず、そのまゝ、パイと表に飛び出した。

南國とは云へ冬の気はさすがに冷たい。安平運河の水も思ひなしか寒さうだ。運河の水に揺れる街の灯を見つめてみると、此の水の續く支那大陸に我が同胞が血に血を洗つて、東洋永遠の平和確立に努めてゐる、對岸支那の民衆は戦禍の中に苦しんでゐるのに、臺灣に住む我々は何等の不安もなく——誰のお蔭だ——それなのに俺は——

突——静かな王君の冥想を破る軍馬の蹄、軍歌の叫び、演習歸りらしい元氣な兵士の一團

「敵は幾萬ありとても 總べて烏合の勢なるぞ 烏合の勢に非ずとも 味方に正しき……」

軍歌の叫びは遂に王君の冥想を破つた、そして破られた冥想の中から日本人本然の姿が現はれた。事變の波が、感激の萬歳が、軍歌の叫びが、輝く日の丸が王敦仁二十六年の迷夢を叩き破つたのだ。今からでも遅くないと。

※ ※ ※ ※ ※

それから間もなく臺南憲兵分隊に軍夫志願の熱意を語る一青年があつた。更生の王敦仁君である。今までの不行跡と不心得を衷心から悔悟して、是非とも聖戦に加はり度いと述べるのであつた。彼は語を續けた「彈丸雨飛の洗禮を受けて、魂のドン底から叩き直し度いのです。勿論一命は國に捧げる覺悟です、戦線参加に依つて少しでも今までの不始末に、不忠に、不孝に報いる事が出来ませう様に、熱心に希望を述べる王青年の瞳は輝き、口をつく一語一語にはいまだかつて見られなかつた眞剣さと熱意があつた。王君の前身を知る人が見たら、これがあの不良の王敦仁かと疑つたであらう。

思ひのたけを存分に申述べて家に歸つた王君は、自分の一室に閉ぢこもつたまゝ、一歩も室から出なかつた、そして只管採用の通知を待つと共に、一切を整理して心残りなく出征したいと考へた。だが此の喜びと期待の中に届けられたのは不採用の通知だつた。

今までの王君否一時の感激、一時の思ひ付きの軍夫志願だつたら「え、ま、よ」と又も不良の仲間入りをするのだが、今はもうすつかり心底から改心した王青年は、採用されなければ採用されるまでの意氣込みで、再び第二回の志願をなし、固い決意の程を申述べた。

係官も王君の熱意と赤誠、そして其の尊い動機に感激し、こんな青年こそ直に戦線に立たしむるべ

きであるとして採用方を通知した。

※ ※ ※ ※ ※

木枯吹きすさぶ初冬の朝、歡呼の聲に送られて出征した息子に、深い事情を語らず、聞かず、此の極道息子が一時の氣まぐれで又兵隊さんに迷惑をかけるのではあるまいかと、極道息子であればある程深く心に掛けて案じてゐた王傳東氏夫妻は、それから間もなく、父母の住む臺灣の土を離れようとする間際に書いたと言ふ王君の手紙を受取つて、はじめて息子の深い決心の程を知つた。

拜啓 父母様を始め一同様に別れの際は非常なる歡送を受け、これ以上の喜びはありません。午前八時頃〇〇着、之から汽船に乗り島を離れて行くのです。〇〇より〇〇に至る間は到る所で大歡送を受け、大林では弟の銀濤にも會ひもう心残りはありません。

母上様どうぞ御安心下さいませ、軍夫には私が志願したのです。二回目にやつと採用の通知を受け、私は非常に満足してゐます、此の機會に彈丸の洗禮を受けて眞人間になつて歸つて参ります、若し私に尙壽命があれば母上の本當の子になつてゐてせう。戦死したら今までの數々の不孝をお許し下さい。私は固い決心を以て働いて少しでも國の爲に盡したいと考へてゐます。決して御心配ない様に……

この手紙に接した王傳東氏夫妻は、始めて息子の眞意を知り嬉し涙にくれるのであつた。時局の波に新生の道を軍夫に求め、敢然立つて聖戦に赴いた王君、輝く日章旗の下に二十六年の迷夢から醒めた王君が、無事に任務を終へて凱旋する日の來らん事を郷黨の人々は神かけて祈つてゐるといふ。

附 録

事 變 日 誌

臨 時 情 報 部

一月一日

1. 濟南に治安維持會成立し、發會式を舉行せり。
會長——馬 良。 副會長——李伯成。
2. 沼田部隊、肥城に入城せり。
3. 福榮部隊、泰安を占領せり。
4. 上海・杭州間の滬杭甬鐵道、廣瀨鐵道部隊の努力により開通せり。
5. 我が空軍、廣東及び粵漢線に空爆を加へたり。

一月二日

1. 博山より南下せる石田部隊、吐糸口鎮・萊蕪を抜き羊流鎮に進出せり。
2. 沼田部隊、儀陽(肥城南方)を占領せり。
3. 福榮部隊、迎家庄・安駕莊を抜き、一部隊は大汶口を占領せり。

一月三日

1. 羊流店を突破せる石田部隊、新泰を占領せり。
2. 沼田部隊、大汶河の線を突破進撃中なり。
3. 福榮部隊、歇馬亭(曲阜北方)に進出せり。
4. 我が部隊、兗州前面の要地高吳橋を確保せり。
5. 左の地點に空爆を加へたり。
津浦・隴海兩線の新安鎮・徐塘莊・徐州・張家集・宿縣。

一月四日

1. 石田部隊、蒙陰を占領せり。

2. 福榮部隊、曲阜を占領せり。
3. 桑田快速部隊、寧陽を抜き古城を占領せり。
4. 漢口を空爆し、敵機十機を爆破せり。

一月五日

1. 石田部隊歴山を占領せり。
2. 福榮部隊、鄒縣を占領せり。尙一部隊は南下兩下店に達せり。
3. 我が軍完全に兗州を占領せり。
4. 桑田部隊、孫氏店に達せり。
5. 田代・倉林部隊、津浦線張八嶺を突破し蚌埠包圍の態勢を執れり。
6. 膠濟線の膠縣及諸城・莒縣に空爆を加へたり。

一月六日

1. 我が部隊の先鋒、膠濟線を東進金嶺鎮を占領せり
 2. 敵軍、飛行根據地を西安・宜昌・漢口・南昌に設ける模様なり。
 3. 漢口・武昌に猛爆撃を加へ敵機十數機を爆破せり。
- 一月七日
1. 桑田部隊、八里鋪を突破濟寧に肉薄せり。
 2. 沼田部隊、大王庄を突破劉家堤に進出濟寧に肉薄せり。

3. 我が政府支那の逆宣傳に反駁し、和平交渉の意圖なしを聲明書を發表せり。
4. 南昌・鉅野(濟寧西方)に空爆を加へたり。

一月八日

1. 膠濟線を東進中の長野(義)部隊、夕刻青州を占領せり。
2. 新疆青海回教徒百萬の新政府絶對支持の決議を携行、兩省代表天津に來り日支當局と會見、其の意を披瀝せり。
3. 廣西省南寧に空爆を加へたり。

一月九日

1. 長野部隊、昌樂を占領せり。
2. 我が空軍南昌を空襲し一機を撃墜三機を爆破せり。

一月十日

1. 拂曉我が陸戰隊青島に上陸、殘敵を掃蕩せり。
2. 沼田・桑田兩部隊、山東の堅堡濟寧城に突入せり。
3. 長野部隊膠濟線上の要地濰縣城を占領せり。
4. 左の地點に空爆を加へたり。
濟寧城・徐州・諸城(山東省)・衢州(浙江省)・奧漢線(連江口)・柳州(廣西省)及び江西省の吉安(廣陵)・建昌(南城)・玉山。(以下次號)

昭和十三年一月十九日印刷
昭和十三年一月二十一日發行

(月三回發行)

臺灣總督府臨時情報部

臺北市榮町二丁目十五番地
印刷人 加 藤 豊 吉
臺北市京町二丁目四十三番地
印刷所 小塚本店印刷工場